

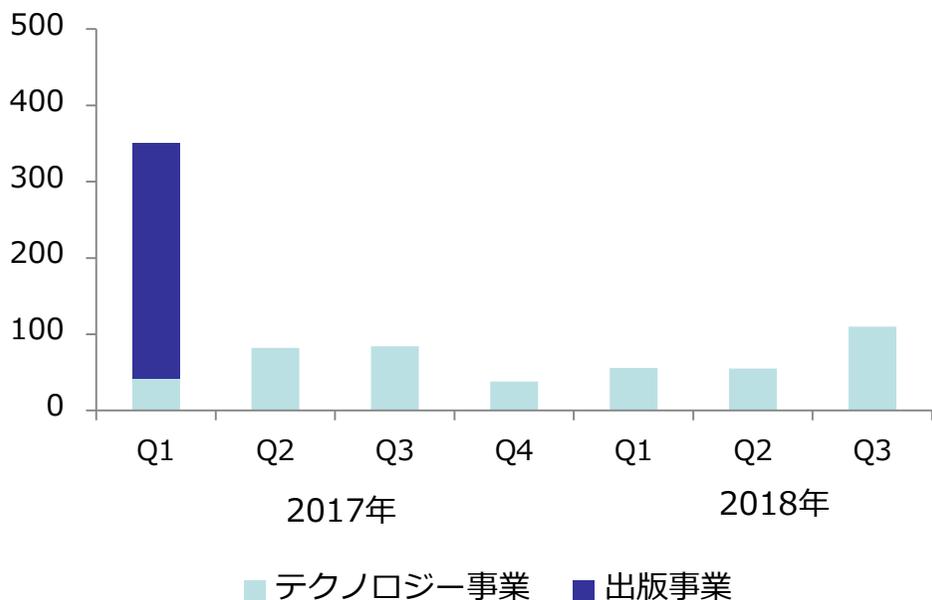
# 2018年12月期 第3四半期決算

---

株式会社アプリックス  
2018年11月13日

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益
17年12月期 Q3累計実績(A)	518	▲278	▲292	▲804
18年12月期 Q3累計実績(B)	221	▲355	▲367	▲370
増減額 (B-A)	▲297	▲77	▲75	+434
増減率 (%)	▲57.3	-	-	-

単位：百万円



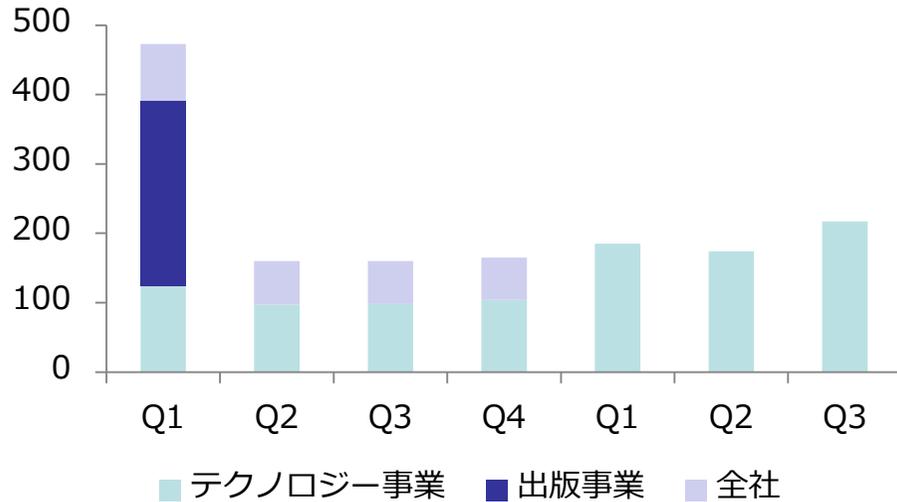
(単位：百万円)	2017年 Q3	2018年 Q3	増減率
テクノロジー事業	84	110	+31.0%
出版事業	—	—	—
(売上高合計)	84	110	+31.0%

- 出版事業については、2017年3月31日に、出版事業に属する全ての子会社の全株式を譲渡。
- 第1四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。
- 第3四半期は、IoTシステム開発によりテクノロジー事業は増収（前年比+31%）

# 18年12月期第3 四半期 営業費用推移



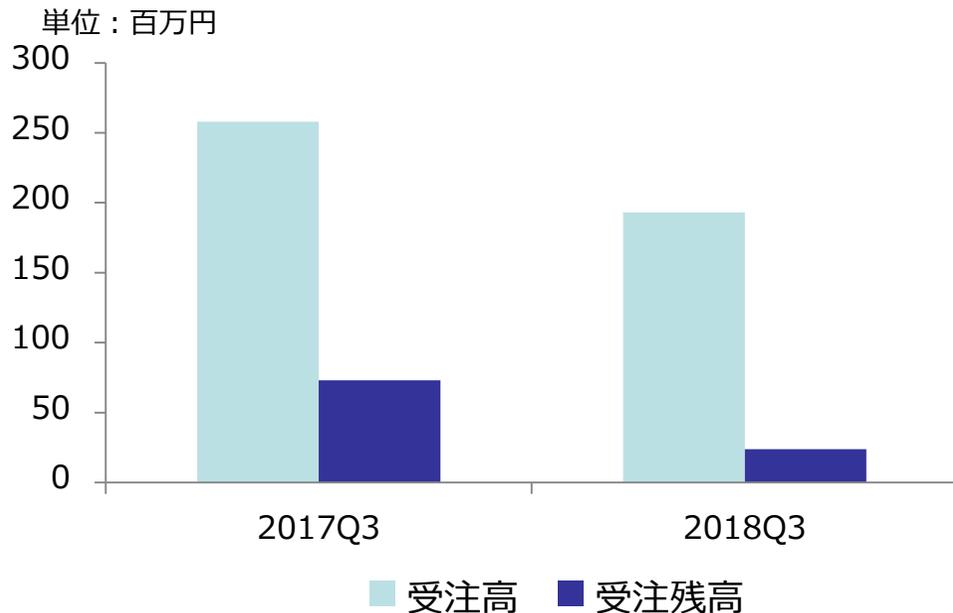
単位：百万円



(単位：百万円)	2017年 Q3	2018年 Q3	増減率
営業費用	161	217	+34.8%

- 第1 四半期連結会計期間より「テクノロジー事業」の単一セグメントに変更。
- 営業費用の増加要因は、開発案件の増加に伴い外注費が増加したこと等の理由によるもの。

# 18年12月期第3 四半期 受注高・受注残高



(単位：百万円)	2017年 Q3	2018年 Q3	増減率
受注高	258	193	▲25.2%
受注残高	73	24	▲67.1%

- 受注実績の主な減少要因は、前第3 四半期連結会計期間における受注額に大口のソフトウェア開発案件の受注が含まれていたことから、前第3 四半期連結累計期間と比較して受注実績が減少。

- ▶ 水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS（ハーパス）」を2018年4月1日に発売。

### ■ 「HARPS」の契約状況

地域	目標契約数	契約締結件数	進捗率
米国・カナダ	12件	3件	25.0%
欧州・中東・アフリカ	10件	8件	80.0%
日本・アジア・その他	3件	3件	100%
TOTAL	25件	14件	56.0%

- ✓ 目標契約件数25件に対して、現在までに14件の契約を獲得

## ➤ 第M-2回新株予約権の行使状況（2018年10月末時点）

当初付与個数	45,000個
累計行使個数	27,542個（行使率：61.2%）
未行使個数	17,458個
平均行使価額	262.07円
当初予定調達金額	1,818,000,000円
2018年10月末時点の調達金額	704,249,060円（進捗率：38.7%）

## ➤ 第S-3回新株予約権の消滅

2017年11月27日に株式会社光通信を割当先として発行した第S-3回新株予約権については、ノックアウト条項に設定された株価を下回ったことにより2018年5月17日に消滅

- 現在当社が取り組んでいる新事業ビジョンに掲げた各施策に関連した豊富な経験や知見等を有する有識者を新たに招聘し、オブザーバー体制を強化。
- 2018年9月28日付で当社取締役を辞任により退任し、顧問に就任した石黒邦宏氏についても、当社オブザーバーの一員として引き続き当社の営業面及び技術面に関与していく予定。

## <当社オブザーバー体制（就任順）>

氏名	主な経歴
田口 勉 (たぐち つとむ)	株式会社アイネット 取締役副社長
根木 勝彦 (ねき かつひこ)	日本電気株式会社 技術部長／技術戦略マネージャー ルネサスエレクトロニクス株式会社 マーケティング部門エキスパート
石黒 邦宏 (いしぐろ くにひろ)	当社 取締役CTO
曽根 卓朗 (そね たくろう)	ヤマハ株式会社 サウンドネットワーク事業部サウンドネット開発部長 ヤマハ株式会社 INFOサウンド開発推進室開発担当部長 静岡大学 臨時講師（現任） ETロボコン実行委員会（現任）

# 今後の成長戦略について



# CONNECTING THE UNCONNECTED

ミッション：「みんなをつなげる」ことに貢献する企業（東証マザーズ：3727）  
「みんなをつなげる」ことによる新たな付加価値の創造と新しいビジネスへのチャレンジ

## 1990年代（中期） メディアのインフラ CDオーサリングツール

WinCDR 6.0  
Premium Package

# CDWriter



大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目される

## 1990年代（後期） ネットワークのインフラ 組み込みシステム向けWebブラウザ



インターネット対応カーナビゲーションシステム、家庭用ゲームのインターネット対応等

## 2000年代 制御のインフラ 組み込み向けシステム向けJavaプラットフォーム



当社Javaプラットフォーム「JBlend」は多数の大手携帯電話メーカーに採用され、株式上場の直接の原動力に全世界で9億台（2018年現在）を超える携帯電話に搭載

## 2010年代 IoT・M2Mのインフラ IoTトータルソリューション



ハードウェアの設計開発・製造からアプリケーション・クラウドサービス、運用・保守までワンストップなIoTトータルソリューションの提供

**これまでの実績をもとにIoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代の新しいインフラの構築・開発・運用へ**



アプリックスは、カーナビ、携帯、家電などの分野における30年以上の取り組みを通じて蓄積した、ハードウェアの知識を活かしたアプリケーション、プラットフォーム開発の実績・ノウハウを保持しております。

## <ハードウェア>



中国等で安価に調達・生産

## <ファームウェア>



ハードを制御するソフト  
当社独自開発

## <アプリケーション>



UI・UX設計から  
アプリフレームワークまで  
設計

## <クラウド>

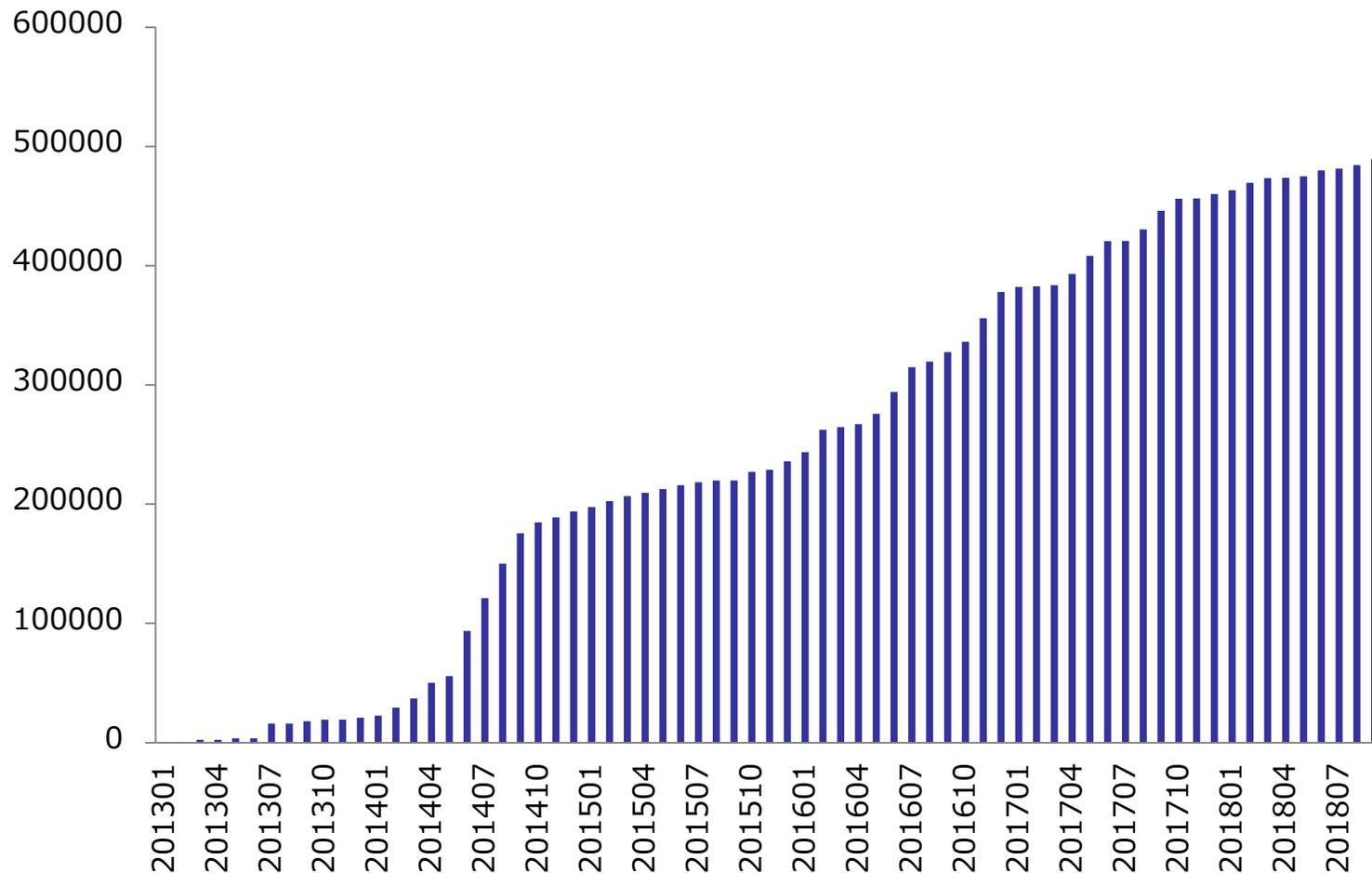


大規模IoTサービスの運営

# アプリックスの強み②モジュール出荷実績



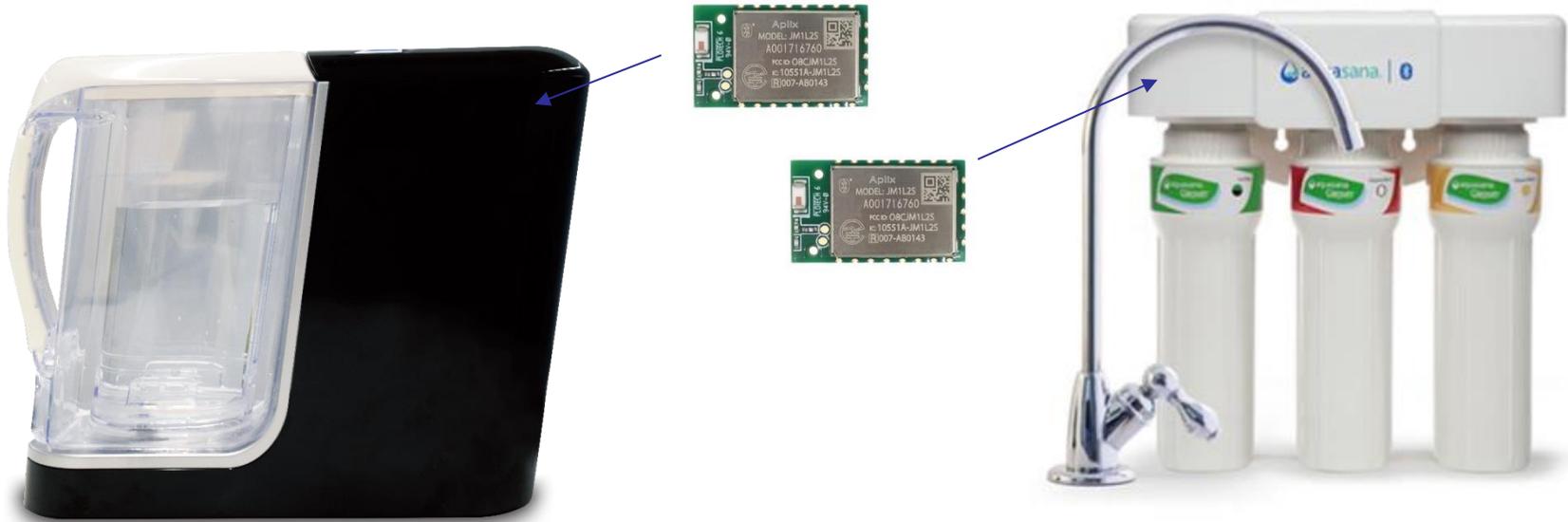
累計出荷台数：約49万台（2018年現在）



出所：会社資料（JMシリーズ、MyBeaconシリーズ、その他を合計）

アプリックスでは2000年代後期より米国を始めとした海外での営業・マーケティング活動を続けており、スマホを活用した浄水器フィルター交換の仕組み（Aquasana, Inc.）、Amazon AlexaやGoogleアシスタントを使った空気清浄機（Guardian Technologies LLC）など海外のクライアントと先端的な実績があります

## IoT 搭載浄水システム



### Aquasana, Inc.

アプリックスのBluetooth Low Energyモジュールが  
米国大手浄水器メーカー Aquasana, Inc.に採用された  
浄水システム

# IoT 搭載浄水システム



## フローメータータイプ

アプリックスの浄水器用IoTソリューションが  
世界最大手のキッチンシンクメーカーFrankeに採用

既存製品に後付け可能なため、  
あらゆる浄水器をIoT化する事が可能

# 浄水器 × アプリックスのIoTが可能にすること

## 専用アプリで利用状況を把握



使用開始してからの浄水量、経過日数を記録してアプリ上に表示。フィルタの交換時期を迎えると自動で通知

## ストレスフリーなフィルタ交換



フィルタ交換の通知をタップするだけで、アプリ内からフィルタの通販サイトへ直接遷移が可能

## IoT 搭載空気清浄機

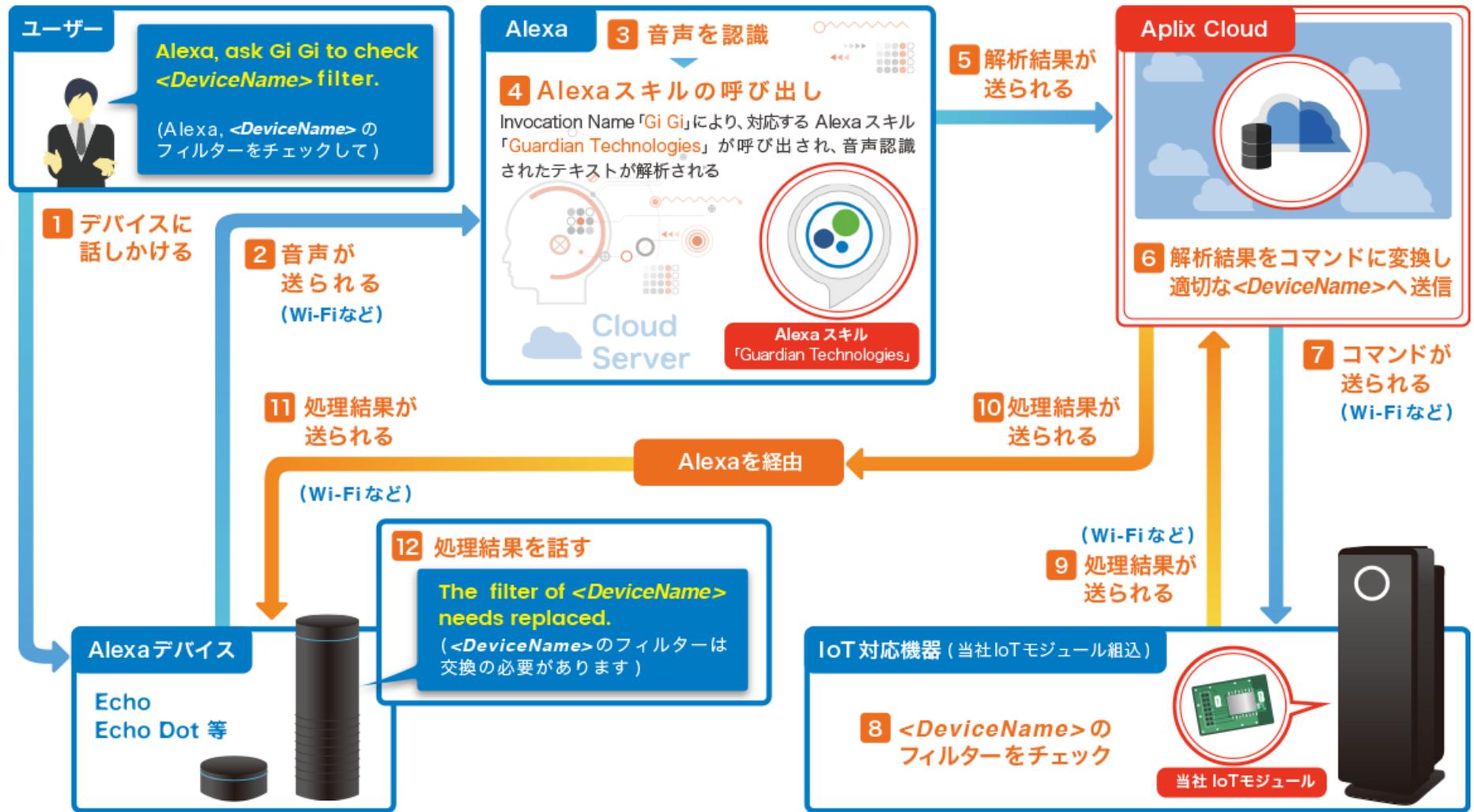
### Guardian Technologies社

Bluetooth Low Energy /Wi-Fi両対応。  
専用アプリを通じた遠隔操作やUIの改善も実現

Amazon Alexa、Google Home対応



# Amazon Alexaの事例



※「Wi-Fi」は、Wi-Fi Alliance の登録商標です。

## 大規模プラットフォーム運用実績（ネスレ日本株式会社様）：

累計出荷台数30万台以上、アクティブユーザ10万を超えるネスレ社の「バリスタ i[アイ]」のIoTプラットフォームをアプリックスが一括して開発・運用しています。

### <主な機能>



アプリでコーヒーの濃さ・泡立ちを調整



飲めば飲むほどポイントがたまる



家族や友達とつながる

### ネスカフェゴールドブレンド バリスタ i[アイ]



# コーヒーメーカー×アプリックスのIoT が可能にすること

## ブランドとユーザーの結びつきを向上



コーヒーメーカーがBluetooth®を通じてユーザーの専用アプリとつながる事で、ユーザーにとって魅力的なコンテンツを数多く提供

- ✓ オリジナルレシピの登録機能
- ✓ SNS機能の提供
- ✓ コーヒーを淹れる度にプレイ出来るゲーム
- ✓ それにより付与されるポイント
- ✓ ポイントを貯めて得られるインセンティブなど。

ユーザーはコーヒーを淹れる事自体が楽しくなり、コーヒーメーカーへの愛着も増進。

ブランドとユーザーの結び付きがより強固なものに

# コーヒーマーカー×アプリックスのIoT が可能にすること

「売り切り型」から「継続収入型」へのシフトをさらに促進



「消耗品の直販率」の増加により「利益率を向上」

そこに加えてこの度、機器のIoT化を実現した事により、**更なる付加価値・新しい体験**をユーザーに提供。  
機器への愛着を強めさせ、「**定期購入契約継続**」の促進に成功しています

また、IoT化によって、**機器から取得されたデータを分析**する事により  
正確な情報を元に、次々とサービスの質を向上させる事が出来るのです

## ■ 現状



■ 今後の戦略

## IoT World Forum Reference Model



■ 研究開発活動



人工知能学会、日本ロボット学会、日本音響学会、情報処理学会・・・

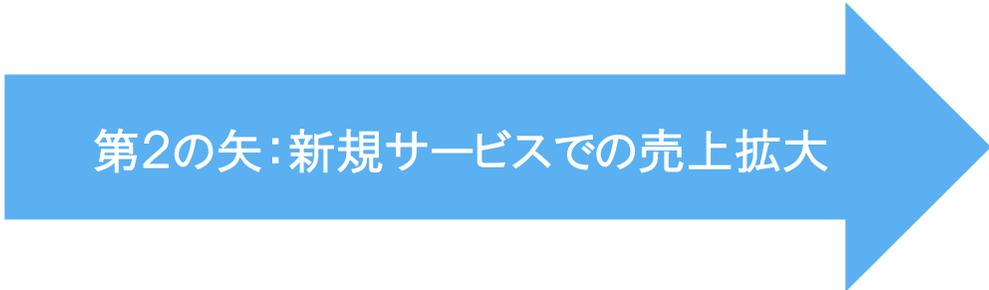
### 当社をめぐる現状と課題

- ・ 18年12月期Q3 売上高2.1億円  
⇒黒字化を達成するには、さらなる売上高の拡大が必要
- ・ 売上高の拡大にあたっての必要な要素
  1. 3本の矢による成長加速
  2. M&A（進行中）

# アプリックス黒字化に向けた3本の矢



第1の矢: 既存ビジネスでの売上拡大



第2の矢: 新規サービスでの売上拡大



第3の矢: 新しい分野への仕込み

## <第1の矢：既存のビジネスでの売上拡大>

### 1・国内

#### ビーコン販売体制の強化

⇒国内営業を強化して、販売体制を拡充

ビーコンからシステム開発までの受注を狙う

#### 受託開発の拡充

⇒「引き合い案件を断らない」をスローガンに拡充

既存顧客からの引き合いが拡大し、3Qは大口顧客からの売上が拡大

### 2. 海外

水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージ「HARPS」の販売強化

既存顧客からのリピートオーダー

### <第2の矢：新規サービスへの取り組み>

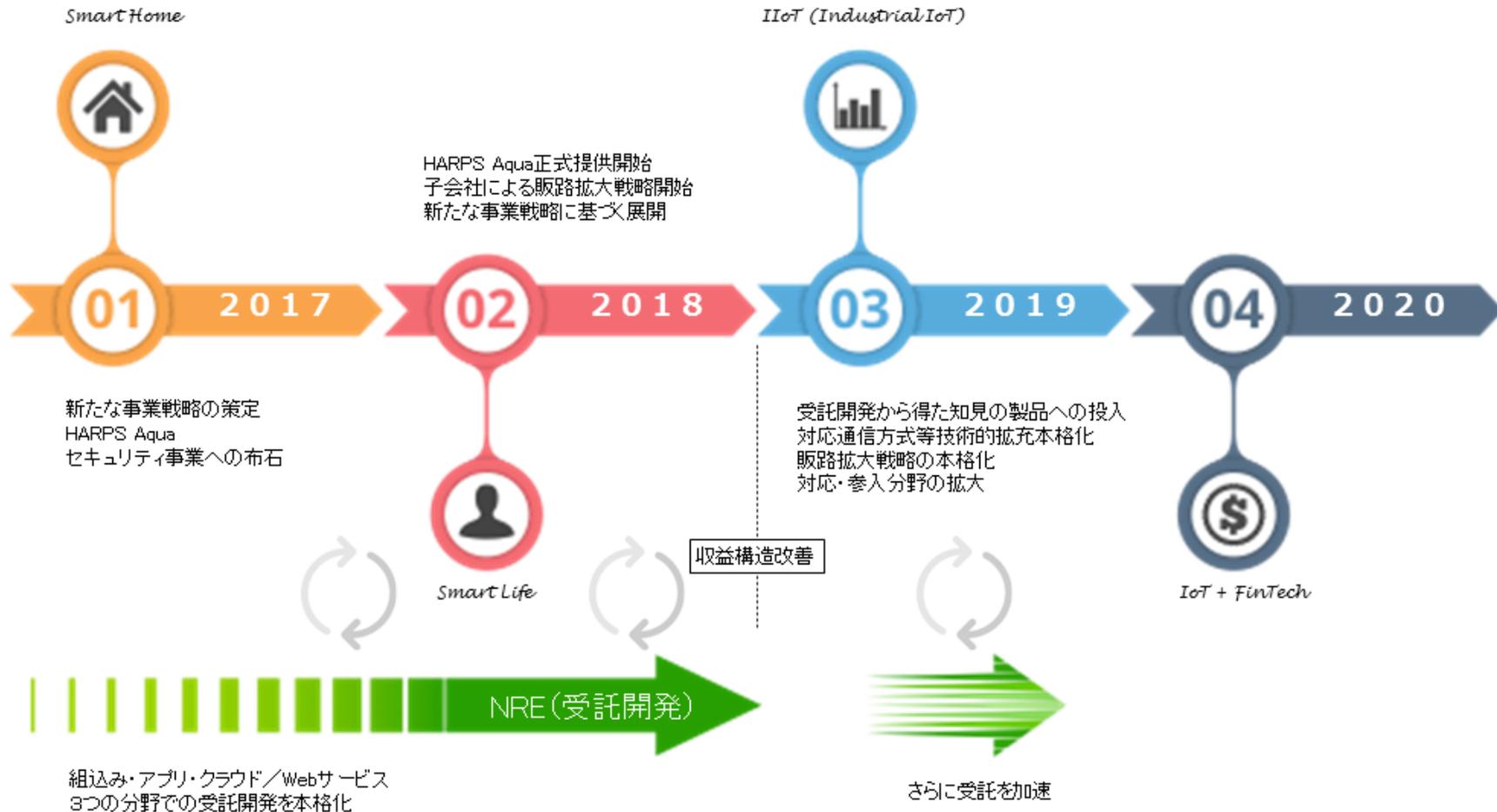
- ・ DAKOQ：ビーコンを用いたスマート打刻サービス  
⇒7月20日に販売開始、クライアントの引き合いもあり、受注強化
- ・ こそあどカメラ：コールセンターなどのスタッフがエンドユーザーからスマートフォンのビデオ通話で話を聞き、写真と手描きの指示でリアルタイムにサポートするサービス  
⇒国内・海外への販売にむけて開発中
- ・ BeaBridgeGateway：ビーコンが発信する情報を無線LAN経由でインターネットに送信するゲートウェイ  
⇒7月20日に販売開始、ビーコンとの併売を狙う  
子会社BEAMOとの協業で販路拡大を強化

### <第3の矢：研究開発>

- ・ groma：屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション  
⇒18年4月に設置した研究開発室が主体となり、尖ったサービス・プロダクトを開発中

# 事業展開に係る中期的タイムライン

2017年11月9日発表の新事業ビジョンに掲げた施策を着実に実行することにより、既存のIoTソリューション事業の拡充、新たな技術の開発及び事業領域の拡大を図り、業績向上を目指す



- 1. 開発エンジニアの個性を尊重し、革新的なサービス・製品を送り出し続けます。**
- 2. 早期の黒字化、ひいては企業価値向上に向けて社員一同全力を尽くします。**

2018年7月20日発表

## Beaconのそばを通るだけで時刻を記録

### スマート打刻サービス「DAKOQ（ダコク）」の価格を決定し、販売開始



アプリックスは、Beacon（ビーコン）のそばを通るだけで打刻ができるスマート打刻サービス「DAKOQ（ダコク）」の価格を決定し、2018年7月20日（金）に、アプリックスのオンライン通販ショップ「mybeacon-store（マイビーコン・ストア）」およびアプリックス営業窓口で販売開始しました。

「DAKOQ」とはアプリックス製のBeacon、スマートフォンアプリ、およびクラウドをセットで提供し、人がBeaconに近づいた時刻を記録・管理するサービスです。

「DAKOQ」 Webサイト：

<https://dakoq.hubea.com/>

mybeacon-store：

<https://mybeacon-store.stores.jp/>

2018年7月20日発表

### Beaconが発信する情報を無線LAN経由でインターネットに送信 「BeaBridge Gateway（ビーブリッジ ゲートウェイ）」を販売開始し、 設定アプリを公開

アプリックスは、新製品「BeaBridge Gateway（ビーブリッジ ゲートウェイ）」を2018年7月20日（金）に、アプリックスのオンライン通販ショップ「mybeacon-store（マイビーコン・ストア）」およびアプリックス営業窓口で販売開始し、設定アプリを公開しました。

価格はアプリックスのクラウド利用料込で「BeaBridge Gateway」1台あたり9,980円（税込、送料込）、設定アプリは無料です。

「BeaBridge Gateway」は、Beacon（ビーコン）がBluetooth Low Energy経由で発信する情報を受信し、その情報を無線LAN経由でインターネットに発信するためのゲートウェイです。発信された情報はアプリックスのクラウドにシームレスに集められ、ユーザーはその情報をいつでもダウンロードして活用できます。

「BeaBridge」Webサイト：<https://www.beabridge.io/>  
mybeacon-store：<https://mybeacon-store.stores.jp/>



2018年10月1日発表

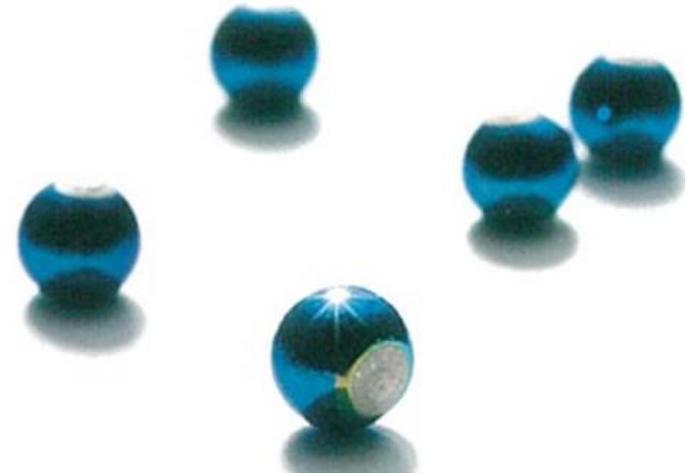
### エネルギーハーベスティングで電力問題の解決とコストの低減 スフェラーパワー社と、 太陽光発電技術を利用したBeaconの共同開発で合意

アプリックスは、球状太陽電池の開発・製造・販売を行うスフェラーパワー株式会社と、太陽光発電技術を利用したBeacon（ビーコン）の共同開発を行うことについて、2018年9月に合意しました。

周囲の環境から光、熱、振動などのわずかなエネルギーを「収穫（ハーベスト）」して電力に変換する技術「エネルギーハーベスティング（環境発電）」が、IoTにおいても大きな注目を集めるようになりました。

アプリックスでも以前からエネルギーハーベスティングを活用したBeaconの研究を進めており、その中で世界初の三次元受光を実現したスフェラーパワー株式会社の球状太陽電池「スフェラー（右写真）」に着目しました。

「スフェラー」は直径が1～2mmの球状シリコンで作られ、p n接合が球面でプラス、マイナスの電極が対向した構造が特長です。一般的な平板太陽電池とくらべ球面全体で光を受けて発電するため、入射光の角度変動や設置角度の影響が少なく、使用期間中の実質的な発電量が大きい特長があります。



2018年10月3日発表

## カメラをかざすと書類や在庫がすぐ見つかる 「groma (グローマ)」第2弾、AR在庫管理スキャナー 「Quanti (クアンティ)」を公開

アプリックスは、AR (Augmented Reality : 拡張現実) 在庫管理スキャナー「Quanti (クアンティ)」を開発し、2018年10月3日 (水) に、日本をはじめ全世界のApp Storeで公開しました。

### Quanti



※画面はイメージです。

「Quanti」は、書類や在庫にiPhoneのカメラをかざすだけで、それらに貼られている複数のARマーカを同時にスキャンし、その中から見つけたいものを素早く探し出すアプリです。

「Quanti」のダウンロード、利用、ARマーカの出力いずれも無料で、ユーザー登録などの必要もありません。法人・個人問わず気軽にお試しいただくことができます。

「Quanti」Webサイト：  
<https://groma.jp/AprilTag>

2018年10月5日発表

### 「MyBeacon Pro MB004 UMc-DR」がucodeタグ認定取得 ～ アプリックス製ucodeタグは2019年に提供開始予定 ～

アプリックスは、「MyBeaconシリーズ」の「MyBeacon Pro MB004 UMc-DR（以下「MB004 UMc-DR」）」が、2018年9月6日（木）、トロンフォーラムからucodeタグ認定を取得しました。

「MB004 UMc-DR」を基にしたアプリックス製のucodeタグは、2019年の提供開始を予定しています。またucodeタグの開発と並行してucodeを利用したサービスのコンサルティングや開発支援も行います。

#### <ucodeタグとは>

ucode（ユーコード）とは、個々のモノや場所などを識別するためのIoT向けのネットワーク解決型汎用識別番号です。ucodeはトロンフォーラム内の組織であるユビキタスIDセンターによって発行・管理されており、国際連合の下部組織であるITU-T（国際電気通信連合・電気通信標準部門）が制定した国際標準規格「ITU-T Y.4804/H.642.1」を実現するための特に重要な技術として全面的に取り入れられています。

ucodeタグとは、ucodeを格納し、自動的に読み取れるようにするための媒体です。ucodeタグにはバーコード、RFIDタグなどの媒体も利用されますが、トロンフォーラムが策定した「Bluetooth LE ucode マーカー」もucodeタグの一種です。Bluetooth LE ucode マーカーの仕様は「Bluetooth LE ucode マーカーパケット仕様 [UID-00049]」で規定されており、「MB004 UMc-DR」はこの仕様に準拠しています。

2018年10月22日発表

### 屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション 「groma（グローマ）」のサービスを拡充 ～ ICTを活用した歩行者移動支援の実現に向けて ～

アプリックスは、国土交通省が推進する、ICT（情報通信技術）などを活用した歩行者移動支援の取り組みに係る各プロジェクトの成果および指針、並びに2018年5月に改正されたバリアフリー法などに則り、アプリックスのBeacon（ビーコン）技術を1つの基軸としたコンサルティングやシステム構築などのサービスを、2018年10月22日から提供開始しました。

2020年開催予定のオリンピック・パラリンピック競技大会に向け、「高齢者や障がい者、外国人旅行者なども含め、誰もが必要に応じて移動に関する情報を入手し、積極的に活動ができるユニバーサル社会の構築」を目指した歩行者移動支援の普及促進活動が、国土交通省を中心に行われています。今後はさまざまな民間事業者による新たなサービス展開なども想定されるため、歩行者移動支援の全体的な市場規模は拡大していくものとアプリックスでは予想しています。アプリックスは、ICTを活用した歩行者移動支援に係る事業および屋内外シームレスなナビゲーションなどのサービス事業を展開する国内事業者様に、このサービスを積極的に提案していきます。

またアプリックスはこのサービスを、アプリックスの屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション「groma」の1つとして位置づけています。来年に向けて、ICTを活用した歩行者移動支援および屋内外シームレスなナビゲーションなどに係る新たなアプリの開発およびサービスの創出についても鋭意取り組んでいきます。

2018年11月1日発表

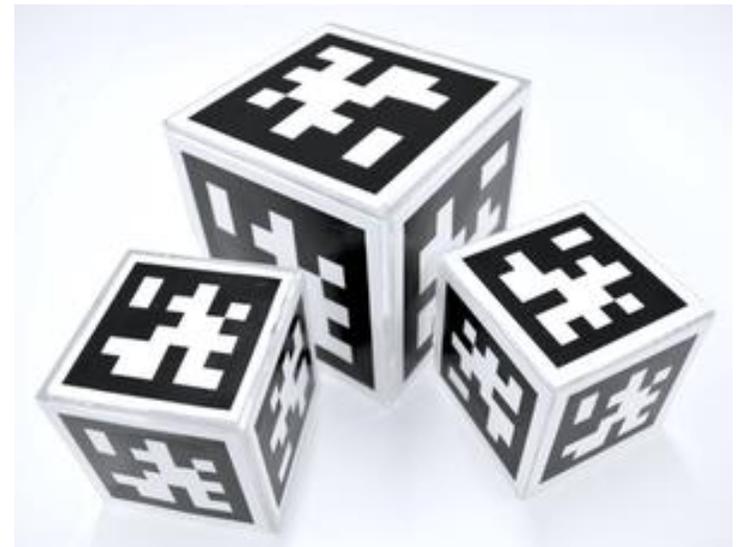
## 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科主催「KMD FORUM 2018」に出展 ～ 「groma (グローマ) AprilTagソリューション for SDM」による ARを使った音の定位変化デモを体験可能 ～

アプリックスは、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（KMD）が2018年11月2日（金）から開催する「KMD FORUM 2018」のSoftware Defined Media（SDM）ブースに、「groma（グローマ） AprilTagソリューション for SDM」を出展しました。

SDMブースでは、AR（Augmented Reality：拡張現実）を使って音の定位（空間的位置）を変化させるデモを行います。来場された方はこのデモを実際に体験していただきました。

「groma AprilTagソリューション for SDM」では、SDM-WGメンバー企業によって構成された立体音響再生システムに、アプリックスの位置情報検知ソリューションを組み込んでいます。またARマーカークには、3次元空間上の位置や姿勢を、画像から正確に計算できる「AprilTag」を利用しています。

「KMD FORUM 2018」では、ARマーカークを6面に貼り付けた立方体（右写真）を使い、立体音響再生システムにおいて再生される音の定位が、立方体の動きに応じて変わるデモを体験できます。



### 新・宅配サービス「MACHI ECO（マチエコ）便」で、 ネスレ日本のシステム開発を支援

アプリックスは、ネスレ日本株式会社が2018年10月1日（月）にリリースした「MACHI ECO（マチエコ）便」のシステム開発を支援しました。

アプリックスは「MACHI ECO便」において、以下のような開発支援・保守を担当しています。



「MACHI ECO便」ロゴ

#### ■ 専用のWebシステム

メール送信、ネスレ公式オンラインショップとの連携、宅配管理など。

#### ■ 専用の宅配ロッカーのシステム

「MACHI ECO便」システムとの連携、QRコードの読み取り、商品の入出庫管理、盗難防止など。

「MACHI ECO便」Webサイト : <https://machieco.jp/>

## 会社名

株式会社アプリックス  
[英文表記：Aplix Corporation]

## 本社所在地

〒160-0051  
東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号

## 設立年月日

1986年2月22日

## 資本金

1,864百万円 [2017年12月末現在]

## 売上高

557百万円（連結） [2017年12月期]

## 従業員数

33名（連結） [2017年12月末現在]

## マネジメント体制（2018年11月1日現在）

代表取締役 兼 取締役社長	長橋 賢吾
常務取締役	根本 忍
取締役	平松 庚三
常勤監査役	大西 完司
監査役	山田 奨
監査役	坂口 禎彦

執行役員	高木 健
執行役員	白川 貴裕
執行役員	山田 信重
執行役員	倉林 聡子

オブザーバー	田口 勉
オブザーバー	根木 勝彦
オブザーバー	石黒 邦宏
オブザーバー	曾根 卓朗

## 事業内容

テクノロジー事業

## グループ会社

Aplix Corporation of America  
株式会社BEAMO

CONNECTING THE UNCONNECTED



株式会社アプリックス  
<https://www.aplix.co.jp/>

ご注意：本資料は、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。